

美しい雌鹿

一 娘が往ったり来たり

緑の園を歩いていると
粹な若者を見かけました
いかにも粹な若者でした

二 娘が往ったり来たり

ヒイラギの木のそばを歩いていると
さっそうとした若者に出会いました
いかにもさっそうとした若者でした

三 「娘さん 緑のマントをくれますか

あなたの処女をくれますか
緑のマントがだめならば
あなたの処女を わたしにください」

四 娘の白い手をとって

そっと地面に横たえました
娘をふたたび起こしたときに
銀の櫛をやりました

五 「おそらく子供ができるかも

おそらく子供はできないかも
もしも あなたが宮人ならば
どうか 名前をお告げください」

六 「宮人などではありません

たった今 海から戻ってきたばかり
宮人などではありません
ただ あなたに求愛しただけ

七 「海のむこうでは ジャックという名で呼ばれたり

ときには ジョンと呼ばれたり
しかし 父の館にいるときは
ジョック・ランドルがわたしの名前」

八 「うそです うそです そんなこと

そんな大うそ言わないで
わたしは ロード・ランドルの一人娘
彼の子供は わたしだけ」

九 「うそだよ うそだよ そんなこと

そんな大うそ言わないでくれ

わたしこそ ロード・ランダルの一人息子
たった今 海から戻ってきたばかり」

一〇 娘は ポケットに手を入れて
ナイフを取り出しました
それを 心臓の血に染めて
みずから命を絶ちました

一一 若者は 妹を抱きあげました
目には大きな涙を浮かべ
美しい妹を埋めたのでした
緑のヒイラギの森の中

一二 それから 急いで谷を越え
帰って 父に会いました
「あの美しい雌鹿のために ああ鎮魂歌^{うらた}を
むこうのヒイラギの木の下の」

一三 「あんな雌鹿 なぜ気にかける
雌鹿だったらいくらでも
むこうの園には百六十頭
そのうえ さらに百頭はいる

一四 「八十頭には銀のひづめ
中から三頭取るがよい」
「でも あの美しい雌鹿のために ああ鎮魂歌^{うらた}を
むこうのヒイラギの木の下の」

一五 「あんな雌鹿 なぜ気にかける
雌鹿だったらいくらでも
やせたのは捨ておいて 立派なヤツを取るがよい
まだまだいくらもいるのだから」

一六 「お父さん あなたの鹿などいりません
あなたの宝もいりません
でも あの美しい雌鹿のために ああ鎮魂歌^{うらた}を
むこうのヒイラギの木の下の」

一七 「部屋にいった
美しい妹に会うがよい
そうすれば もう あんな雌鹿忘れるだろう
むこうのヒイラギの木の下の」